

## 越後国内各地の私札類についての一考察

新潟貨幣研究会・日本近代金貨研究会会長 坂井 司

新年明けましておめでとう  
 ございます。本年も宜しくお  
 願い申し上げます。二〇二〇  
 年は新型コロナウイルスの影響  
 により残念ながら思うよう  
 な収集、研究活動や県外の古  
 泉会、貨幣研究会への参加、  
 新潟貨幣研究会創立七周年記  
 念式典や通常の例会などの開  
 催が出来ませんでした。

そのような大変な状況で  
 あった一年間でしたが、私が  
 今現在特に力を入れて取り組  
 んでいる故郷新潟県内の古貨  
 幣・古紙幣類については、コ  
 レクションとして新たに入手  
 出来た物や新しく知見が増え  
 たものもあり、また本誌昨年  
 七月号に掲載させて頂いた越  
 後国内の新発見札について「私  
 札 越後岩船郡村上肴町 紙屋  
 札についての「一考察」と題し  
 て発表させて頂く事もできま  
 した。

そのため今回の新春エッセ  
 イでは越後国内各地の私札類

について現在の新潟県内のど  
 のような地域で通用していた  
 のかを少しまとめてみることに  
 してみました。なお今回の  
 エッセイでの発表は紙で製造  
 された私札類に限定させて頂  
 き、木で製造された木札の私  
 札類については掲載の都合上、  
 詳細な説明を割愛させて頂  
 きます。

現在新潟県内にて真正品の  
 現存が確認されているものは  
 一二種類あり、以下、北から  
 順にまとめます。

・岩船郡（現：村上市）

村上肴町紙屋札・屋号印無し  
 札五種類、屋号印有り札一〇  
 種類

村上肴町村上製茶会社札・八  
 種類

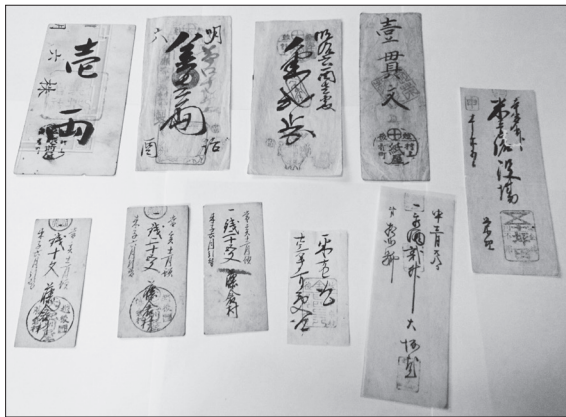
村上片町米屋伊助札・慶応元  
 年銘一類、慶応二年銘三種類

肴町紙屋札につきましては  
 昨年「収集」七月号にて発表

させて頂いておりますので詳  
 細は割愛させて頂きます。

同じ肴町の村上製茶会社札  
 は、村上製茶会社にて使用し  
 て無効になった株券を裁断し  
 作られた札であり、他に類を見  
 ない非常にユニークな札です。

片町米屋伊助札については、  
 一部資料等には村上藩の藩札  
 としての評価や記述等があり  
 ますが、当札の様式や当時の  
 流通状況を調べる限り、この  
 片町米屋伊助札は私札の類で  
 あると考えられます。



越後国内で発行流通した私札類の一部(筆者所蔵品)  
 (上)表面 (下)裏面

・西蒲原郡（現：新潟市西蒲区）  
 巻町仲間内取引之極札…一  
 種類（額面は一律銭二五文  
 ですが、押されている屋号  
 印は現在一一種類確認され  
 ています）

巻町仲間内取引之極札はま  
 だ一般にはあまり知られてい  
 ない札であります。現在は  
 東京大学 経済学図書館経済学  
 部資料室に二一枚の所蔵が確

認されています。二〇二〇年  
 五月の連休頃に、コロナウイ  
 ルスの影響による緊急事態宣  
 言下の外出自粛期間中に出来  
 た時間を有効活用するため、  
 これらの札の画像を、自宅で  
 スマートフォンを用い、前述  
 の資料室のホームページにて  
 確認し再度精査したところ、  
 新たな発見がありました。この  
 点につきましてはより調査  
 研究を重ねて今後発表出来れ  
 ばと考えております。

曾根仲間内取引極札も巻町

注記のない画像は原寸ではありません

の札と同時期に発行、流通していたと思われませんが、この点につきましても上記の巻町仲間内取引之極札と同様に今後の調査研究にて解明できればと考えております。

・三島郡（現：長岡市）  
与板大坂屋酒切手・二種類

平成二三年頃に新潟県内に新たに発見された私札であり、私が所蔵している品のよくな屋号印（不能読）が押してある物や（賈）の朱印が押された物もあります。大坂屋酒切手につきましてはまだ不明な点が多数存在しますが、この点につきましては今後の調査研究で解明したいと考えております。

・刈羽郡（現：刈羽郡刈羽村）  
十日市村雪成米一合切手  
・刈羽郡（現：柏崎市西山地区）  
宮川村坪田屋米一俵切手

当時の刈羽郡十日市村、同郡宮川村があった地域一帯は今現在でも田園風景が広がっております。そういった背景

から米切手が発行され、通用したものと考えられます。

また宮川村には坪田屋の米一俵切手以外にも商屋（早川屋）の屋号印が押されている手形の形式の物も確認されています。

・東頸城郡（現：十日町市）  
藤倉村紀州屋札・二種類

西浦田村の商屋札・一種類（未見ではありますが、藤倉紀州屋札と同様に銭一〇文札が存在する可能性があります）

藤倉村、西浦田村は現在の十日町市松之山地区に存在した村で、藤倉村と西浦田村は隣同士であります。この地域は当時酒造りが盛んな地域であったため、どちらの札も酒屋が発行した私札であると考えられます。また札に記述がある年号を確認する限り、ほぼ同時期に流通していたものと考えられ、そのため札の様式や書かれてある文言等に似通った点が多数あります。西浦田村の商屋札にも屋号印が押されておりますが不能読の

為、この点につきましては今後の調査研究にて解明したいと考えております。

・西頸城郡（現：糸魚川市）  
糸魚川大源札・三種類  
今村惣庄屋札・二種類

糸魚川地域の私札類は右記の糸魚川大源札、今村惣庄屋札の他にも文献等に記載があるものが存在しております。右記の二点を含め、糸魚川地域の私札類には不明な点が多くあり、この点につきましても今後の調査研究にて解明して発表出来ればと考えております。

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。  
さて小生の人生も残り少なく（本年正月傘寿）なったので、「終活」の一環として、昨年『尾張知多の豪商と紙幣』（次頁写真1）を上梓した。同書は地元「はんだ郷土史研

ます。

今回掲載したもののうちの一部は以前には、藩札として評価されていたものもありますが、札の様式等を精査すると明らかに私札の類であると評価できるものも多数あります。また、改めてまともであると、新潟県内の北から南までほぼ全域で発行が確認できますが、今回挙げたもの以外にも新潟県内に町村は当時より多数存在し、文献等には記載があるものの、現在真正品の確認が出来ていない新潟県内の私札が多数あります。こ

れらの点につきましては今後の調査研究にて発見、解明したいと考えております。

二〇一九年に発見された村上肴町紙屋札のように、越後国内の私札類についてはこれからは新発見がある可能性が非常に高いので、二〇二一年はコロナウイルスの影響を受けず新たな発見、入手が出来れば良いなあ……との初夢を見つつ新春エッセイを終わりたいと思います。

最後に二〇二一年の皆様のご健勝と泉運をお祈り申し上げます。

## 『尾張知多の豪商と紙幣』出版のしらべ

尾州古札研究会会長

尾札庵 本美 吉朗

研究会」の代表幹事西まさる氏、並びに出版社の全面的な協力のもとに出版半年前から知多半島は勿論のこと、全国の書店に予告、宣伝されたため早くから話題となっていた。

まず最初に西まさる氏を通して原稿を送ったのが昨年の三月二六日のことだった。西

氏によると出版社は原稿の最初の数枚を読んだだけで出版に乗り気になったそうである。よって四月一〇日には小生と出版社との間で正式に契約が行われた。これにより版權は新葉館出版株式会社、著作権は小生と決まった。そして知多半島での最初の